

# CDPスコアの意義・活用



# CDP質問書

## 情報開示の向上



### CDPはグローバルな開示基準／フレームワークや規制と整合

※整合のプロセスにおいて、各機関、政府と綿密に連携

#### これまでに整合



2018年から



2023年から



S2号:2024から



#### 整合の推進



米国証券取引委員会(SEC)規則案に約75%整合



欧州サステナビリティ報告基準(ESRS)との整合をパートナーシップを通じて進める。



TNFDの開示勧告に部分的に整合、完全整合に向けて取り組み中

# CDP質問書

気候変動と自然のグローバルな課題解決、目標達成のために



気温上昇を1.5°Cに抑える = 2050年ネットゼロ

2030年までにネイチャーポジティブ

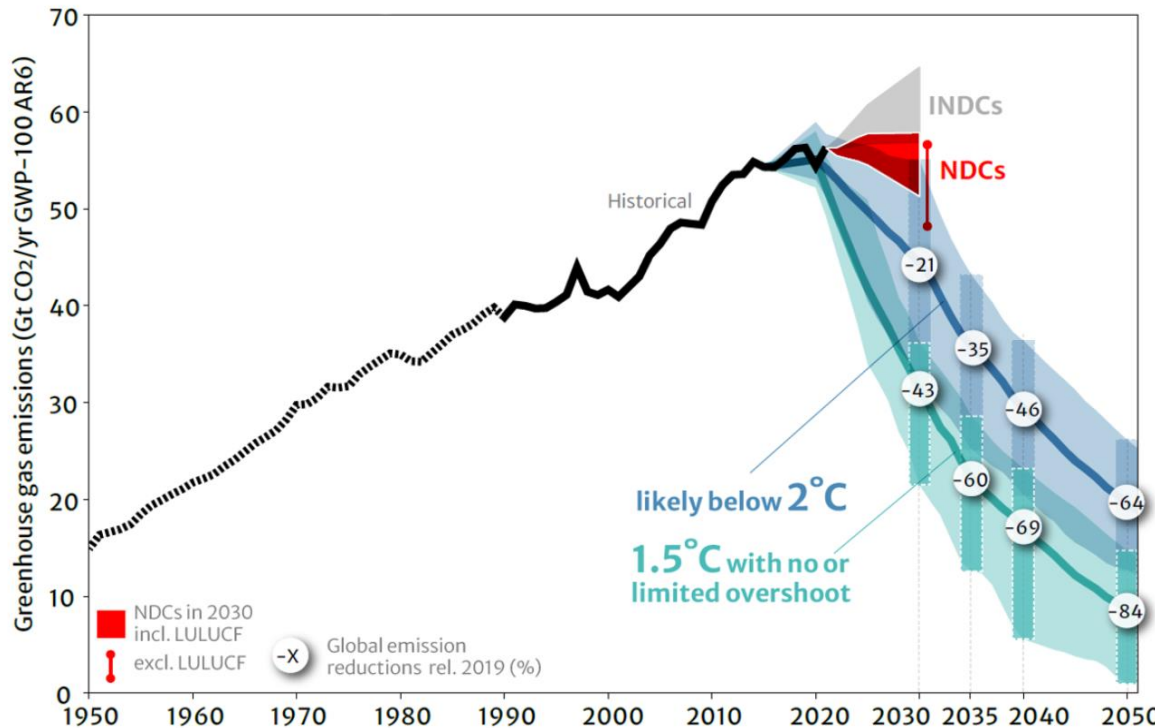
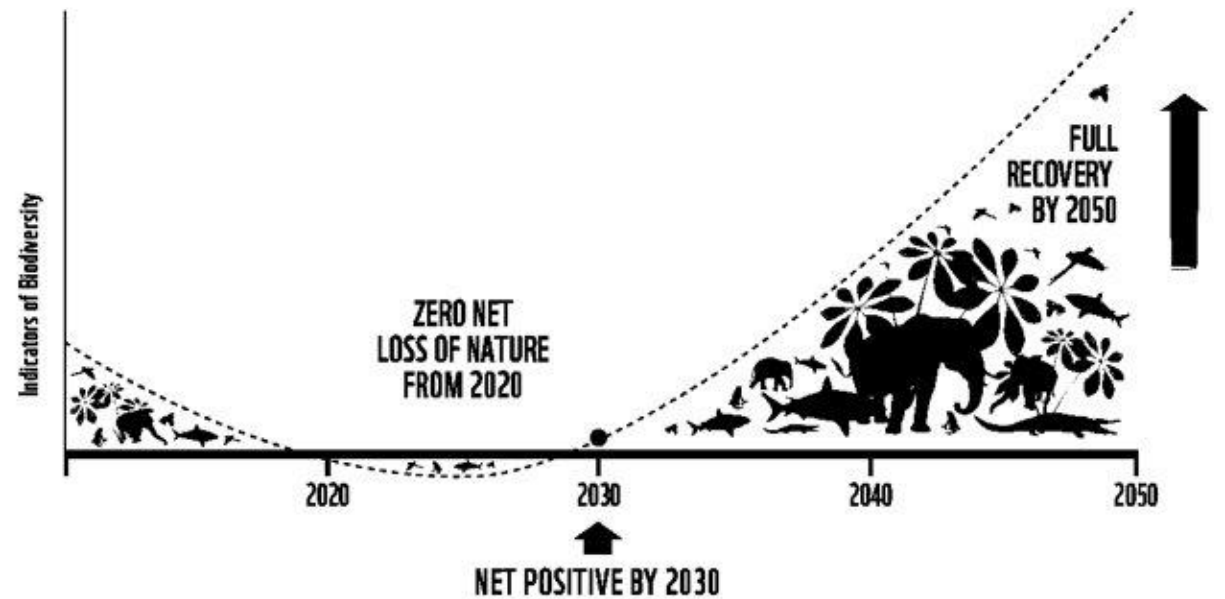


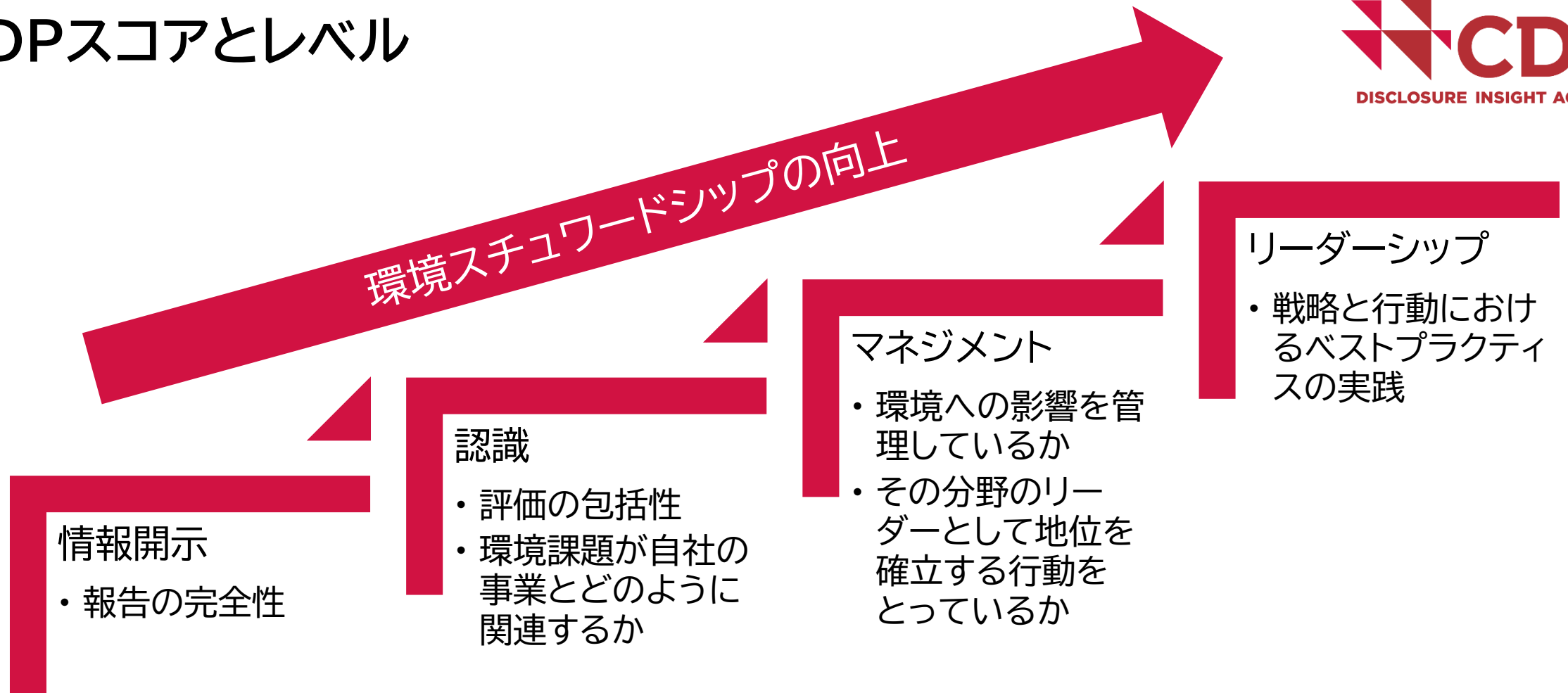
Figure: UN 2023. Technical Dialogue of First Global Stocktake.

## Global Goal for Nature: Nature Positive by 2030



出典 : <http://naturepositive.org/>

# CDPスコアとレベル



ベストプラクティスを認識  
情報開示や取組みの野心レベルを高める

# 各レベルの必須要件

## 次のレベルに達するために満たさなければならない必須要件

- 各スコアレベルにおいて、一貫した報告基準が設定され、企業が環境課題をどのように評価し、対応しているかを理解する上で重要な主要データポイントが含まれることが保証される
- 高得点企業が最も一貫性のある包括的な方法で開示していることを保証し、環境スチュワードシップの進捗状況を十分に示すために組織が開示しなければならない重要なデータポイントを明確にする



# 各レベルの必須要件



## ▼ 必須要件が設定されているのは、

- 完全版質問書のみ (SME版質問書には設定されていない)
- 気候変動のみ、認識、マネジメント、リーダーシップ、Aリストの各レベルに設定
- ウォーター、フォレストは、リーダーシップ、Aリストのレベルに設定
- ウォーター、フォレストは、金融サービスセクターには必須要件は適用されない

## ▼ 必須要件の適用

- 例) 認識レベルの必須要件を一つでも満たしていない場合、最終スコアはD以下。  
マネジメントレベルの必須要件を一つでも満たしていない場合、最終スコアはC以下。

## ▼ ネットゼロ目標の有無は現在必須要件ではないが、将来的に導入を検討する

# 気候変動スコアリング必須要件



	認識レベル	マネジメントレベル	リーダーシップレベル	Aリスト
リスクと機会	2.2.1 2.2.2	2.2.2 3.1 3.1.1 3.6 3.6.1	5.3.1 5.3.2	—
取締役会における監督	4.1 4.1.2 4.3	4.1 4.1.2	4.1 4.1.2	—
インセンティブ	—	—	4.5.1	4.5.1
ポリシーエンゲージメント	—	—	4.11	4.11
移行計画	—	—	5.2	4.1 4.1.2 4.3.1 5.2
バリューチェーンエンゲージメント	—	—	—	5.11
排出量の除外	—	—	—	7.4 7.4.1
スコープ1と2排出量の開示	—	—	7.6 7.7	—
排出量の第三者検証	—	—	7.9.1 7.9.2 7.9.3	7.9.1 7.9.2 7.9.3
スコープ3排出量の開示	—	—	7.5 7.8	—
エネルギー関連の活動	—	—	—	7.30 7.30.7 7.30.9
排出量目標	—	—	7.53.1 7.53.2	7.53.1 7.53.2
回答の公開	—	—	質問番号無し 全環境課題に共通の基準	—

# 気候変動スコア必須要件: リスクと機会(金融サービスセクター以外)

	認識	マネジメント	リーダーシップ	Aリスト
2.2.1	環境リスクを特定、評価、管理するプロセスがある			
2.2.2	[環境課題]の列で、最低一行[気候変動]を選択している	[気候変動]を選択した行で、リスクの特定、評価、管理プロセスが下記のバリューチェーンの段階のいずれかをカバーしている <ul style="list-style-type: none"> <li>直接操業</li> <li>バリューチェーン上流</li> <li>バリューチェーン下流</li> </ul>		
3.1 / 3.1.1		[気候変動リスクがある場合] <ul style="list-style-type: none"> <li>3.1.1で、[気候変動]を選択した行で、すべての列を記入した行のみが採点対象</li> </ul> [気候変動リスクがない場合] <ul style="list-style-type: none"> <li>3.1で、[気候変動]を選択した行で、重大な財務的／戦略的影響がない、またはリスクを評価中としている</li> </ul>		
3.6 / 3.6.1		[気候変動機会がある場合] <ul style="list-style-type: none"> <li>3.6.1で、[気候変動]を選択した行で、すべての列を記入した行のみが採点対象</li> </ul> [気候変動機会がない場合] <ul style="list-style-type: none"> <li>3.6で、[気候変動]を選択した行で、重大な財務的／戦略的影響がない、または機会を評価中としている</li> </ul>		
5.3.1 / 5.3.2			[環境リスク／機会があり、事業戦略への影響がある場合] <ul style="list-style-type: none"> <li>5.3.1で、事業戦略への影響を回答</li> <li>全ての列を記入した行のみが採点対象</li> </ul> [環境リスク／機会があり、財務計画への影響がある場合] <ul style="list-style-type: none"> <li>5.3.2で、財務影響への影響を回答</li> <li>全ての列を記入した行のみが採点対象</li> </ul>	



# 気候変動スコア必須要件：取締役会の監督



	認識	マネジメント	リーダーシップ	Aリスト
取締役会やそれに相当する管理機関がある場合(4.1)				
4.1.2	[気候変動]を選択した行で、環境課題に関する説明責任を負う取締役会レベルのポジションを回答	[気候変動]を選択した行で、取締役会で環境課題について取り上げる頻度、環境課題が考慮されているガバナンスメカニズムを回答	[気候変動]を選択した行で、取締役会の環境課題に対する能力と、その能力を維持するためのメカニズムを回答	
取締役会やそれに相当する管理機関がない場合(4.1)				
4.3	[気候変動]を選択した行で、環境課題に関する経営層レベルの責任を回答			

# Aリスト要件(=ベストプラクティス)の変遷

※詳細は必須要件の資料を確認



気候変動	~2021	2022	2023	2024
スコープ1, 2報告	重大な算定除外がない			
スコープ1, 2 第三者検証	70%以上の第三者検証を受けている		100%の第三者検証を受けている	
スコープ3報告	重大な算定除外がない			
スコープ3 第三者検証	70%以上の第三者検証を受けている(一つ以上/特定のカテゴリー)			
移行計画			1.5°Cに整合、公表している、取締役会の監督・経営層の責任、進捗状況を追跡するフィードバックメカニズム(または2年以内に導入予定)	
サプライヤー エンゲージメント			サプライヤーエンゲージメントを実施している	
排出削減目標			スコープ1+2の短期目標がSBTの認定を受けている /全社的な、スコープ1, 2の95%以上をカバーし、目標年が5-10年先の目標	

# Aリスト要件(=ベストプラクティス)の変遷

※詳細は必須要件の資料を確認



フォレスト	2021	2022	2023	2024
報告範囲	重大な除外がない			
リスク特定・評価・管理	全ての操業とサプライチェーンに対し包括的かつ徹底的なリスク評価が実施されたことを実証			
コモディティの報告			スコアリング対象コモディティの全調達量／生産量、原産国の情報を報告	
モニタリング			自然生態系の転換をモニタリング／サプライチェーンの森林減少/自然生態系の転換フットプリントをモニタリングorフットプリントを推定	
取締役会の監督				森林関連課題の説明責任、取締役会の能力
森林減少／自然生態系の転換なしの状況				当該コモディティ量の割合

# Aリスト要件(=ベストプラクティス)の変遷

※詳細は必須要件の資料を確認



フォレスト	2021	2022	2023	2024
目標	持続可能なコモディティを増やす定量的な目標がある		森林減少／転換なしの目標	目標年2025年以降、指定期限が2020年以降の森林減少／転換なしの目標
認証・トレーサビリティ	あり	十分なトレーサビリティ地点までのトレーサビリティがコモディティ量90%以上／コモディティ量の70%以上が認証		十分なトレーサビリティ地点までのトレーサビリティがコモディティ量70%以上
社外活動・ランドスケープ／管轄アプローチ	社外活動・イニシアチブに参加	社外活動・イニシアチブに参加／ランドスケープ・管轄アプローチでエンゲージメントを実施		
企業方針	文書化した森林に関する企業方針があり、公開			
転換・森林減少なしのコミットメントについての管理システム	あり	管理システムがあり、遵守されている割合が91%以上		
サプライヤーエンゲージメント	直接サプライヤーとの協働			サプライヤーの遵守要件／協働の種類
公開のコミットメント		あり		
コミットメント・方針	森林減少ゼロ	自然生態系の転換なし／森林減少ゼロ		

# Aリスト要件(=ベストプラクティス)の変遷

※詳細は必須要件の資料を確認



ウォーター	~2022	2023	2024
報告範囲	重大な除外がない		
水のモニタリング		拠点/施設/事業所の75%以上が、以下の事柄について定期的にモニタリング： 取水量 - 総量、排出量 - 総量、排水の水質 - 標準的な排水パラメータによる すべての労働者に対する、十分に機能し、安全に管理された WASH サービスの提供	
水ストレスのある地域からの取水量		前年度と比較して少ない、または安定している	
サプライヤーエンゲージメント		水に関する問題について、サプライチェーンとの協働を報告する	
水リスクの特定、評価、管理			水リスクの特定、評価、管理を実施している
取締役会の監督			水関連課題の説明責任、取締役会の能力
水の方針			公開している水の方針があり、特定のコミットメントを含んでいる
水の目標			取水/汚染/WASHサービスのうち、2種類以上の目標を設定

# CDPスコアの活用 – 金融機関



## サステナビリティ／トランジション・リンク・ローン

- CDPスコアに応じた金利設定。
- CDPスコアだけでなく、GHG排出量も組み合わせた指標設定。
- 三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、三井住友信託銀行、滋賀銀行などがアレンジ。

## ファンドでの活用

- (例) Aviva Investors Climate Transition Global Equity Fund
- 移行リスクが大きいセクターは、一定以上のCDP気候変動スコア(例:B以上)でないと、投資の対象外となる

## インデックスでの活用

- (例) Invesco Global Climate Alignment index
- 収益の閾値と、CDP気候変動スコアがB以上を満たしている場合に対象

# CDPスコアの活用 – 回答企業



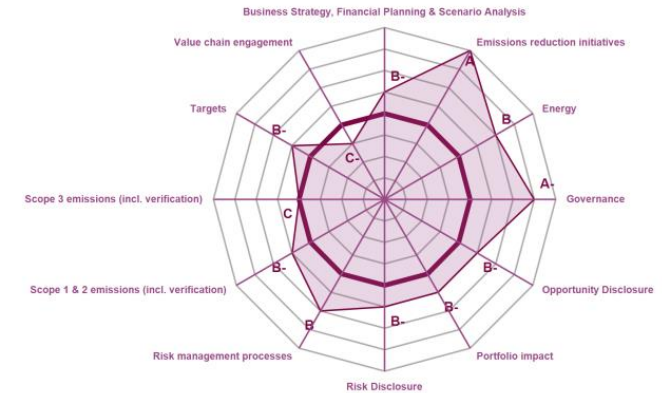
- ▼ 自社の情報開示・環境への取り組みについて振り返り
  - CDPスコアレポートを活用(カテゴリー別のスコア、セクター平均との比較等)

- ▼ 経営層の業績評価の指標として活用

スコアレポート例  
(2024のスコアレポートは変更になる可能性があります)

## CDP SCORE REPORT - CLIMATE CHANGE 2022

### CATEGORY SCORES



### CATEGORY SCORES BENCHMARKING

